

# 「科学者の責任と役割」

2011年11月26日



科学の知を社会に生かすには・・・

保坂 直紀

読売新聞東京本社科学部

hska0100@yomiuri.com

# 東日本大震災

Naoki Hosaka

科学の知が社会でうまく作動しなかった



読売新聞 2011年3月12日朝刊

13日朝刊

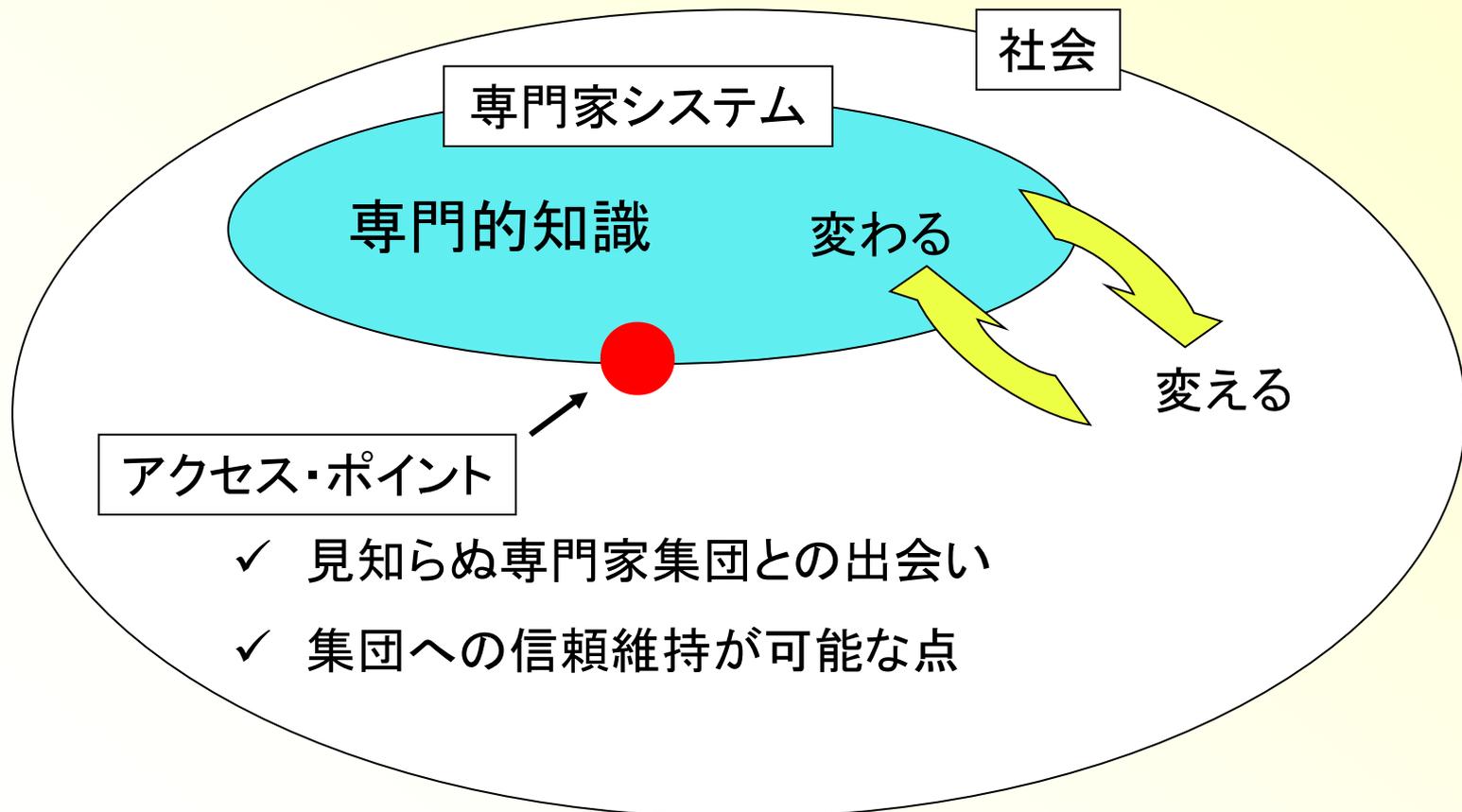
# 横たわる課題

---

- 科学の知に欠陥はないのか？  
科学のための科学、regulatory science
- 社会への埋め込み方に問題はないのか？  
科学の知と政策決定、「科学的に判断」
- 社会へ埋め込みを市民は許すか？  
科学というシステムへの信頼

# ギデンズの「専門家システム」

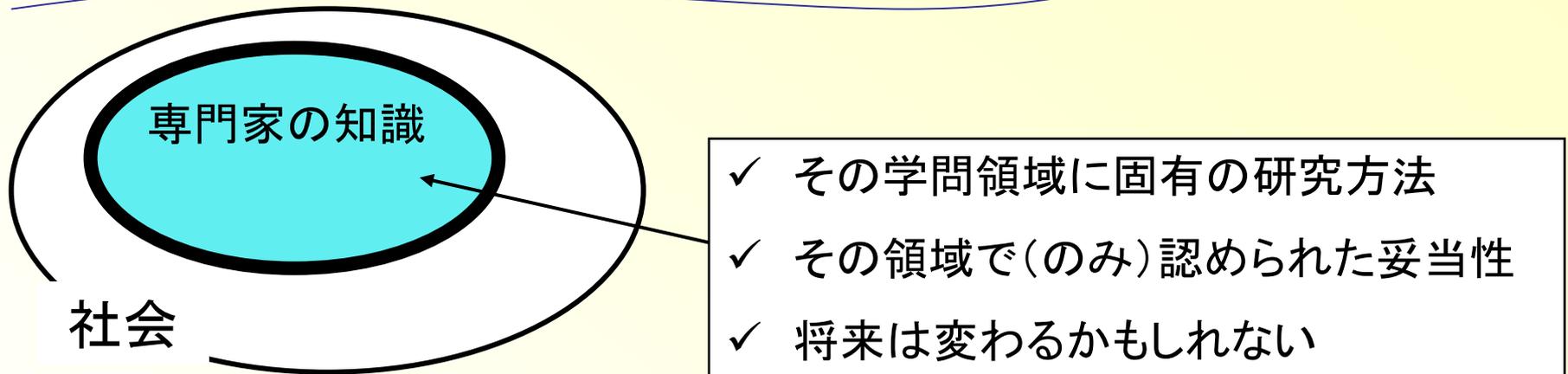
Anthony Giddens 『近代とはいかなる時代か？』



# 専門知への信頼の崩壊

- 専門知
  - 専門知を生かしてはいたはずの仕組み
- 
- ✓ 「日本はBSE汚染国ではない」(農水省) → BES牛発生
  - ✓ 耐震偽装問題
  - ✓ 巨大地震の見積もりの甘さ
  - ✓ 「原発は安全」 → 過酷事故
  - ✓ 福島県産米の安全宣言 → 基準値超えるセシウム検出

# 信頼回復の出発点

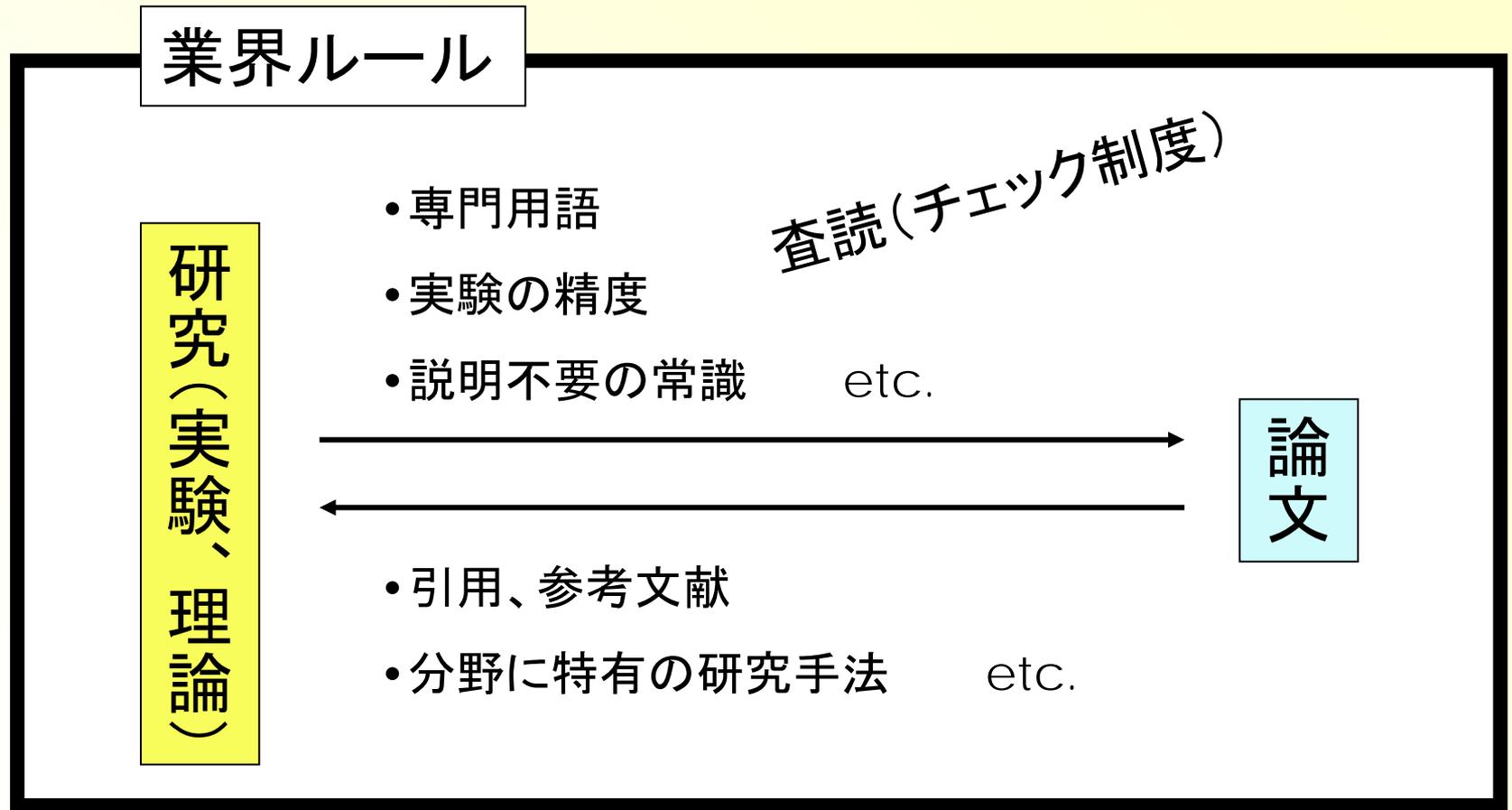


「科学の知は、ほんらい社会となじみが悪いのではないか」  
と市民は思うようになった

専門家の特徴 (吉川肇子『リスクとつきあう』)

- 科学的・合理的な判断がベストだと考えがち
- 自らの正しさについて確信を持ちすぎ

# 科学という特殊な営み



厚い壁

壁の内側で生きる訓練 = 大学院教育

# 科学(者)に対するイメージ

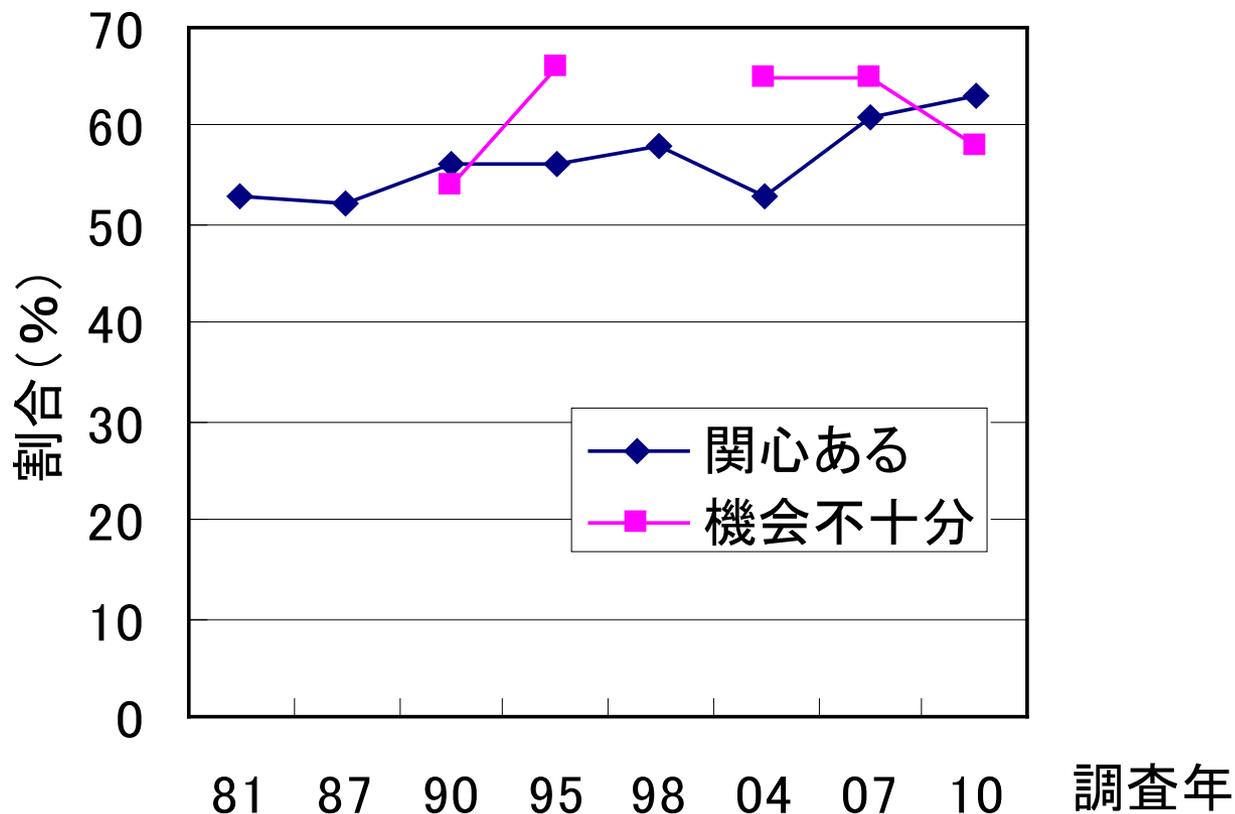


- ✓ くそ真面目な専門家や狂気じみた科学者
- ✓ 敬意を敵意や恐怖心と一緒にしたものの
- ✓ 一般の人びとを煙に巻くために専門知識の主張をおこなう
- ✓ 内輪のものだけに通ずる専門用語を駆使

(アンソニー・ギデنز『近代とはいかなる時代か?』 p.114)



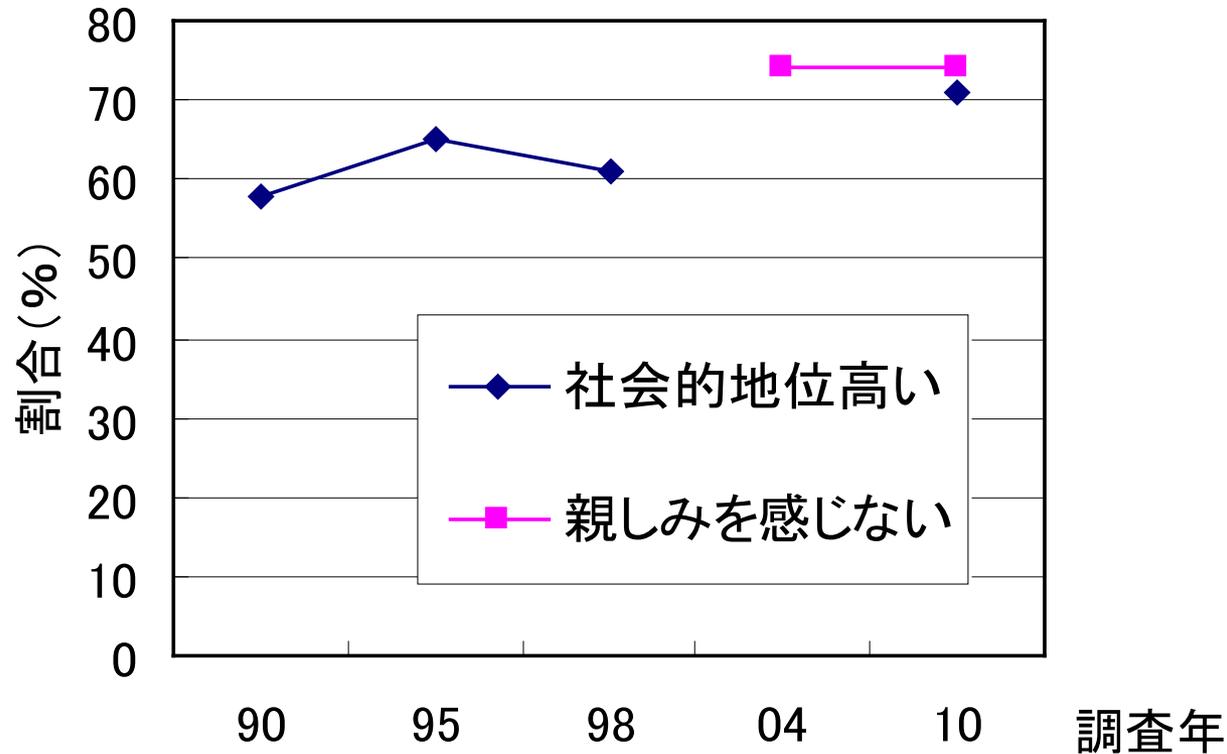
# 科学技術に対する関心



科学技術と社会に関する世論調査(内閣府)

# 科学者・技術者のイメージ

Naoki Hosaka



科学技術と社会に関する世論調査(内閣府)

# 科学・技術(者)のイメージ

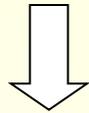
- 科学や技術に関心はあるが、その情報を得る機会是不十分
- 科学者や技術者は、社会的地位が高いと思うが、あまり親しみを感しない

「ちょっとエラソーな人たちが、  
難しいことを言っている。面白そ  
うだけど、近寄りがたいなあ」



# 「素朴なリアリズム」

わたしは客観的にものを見ているという確信

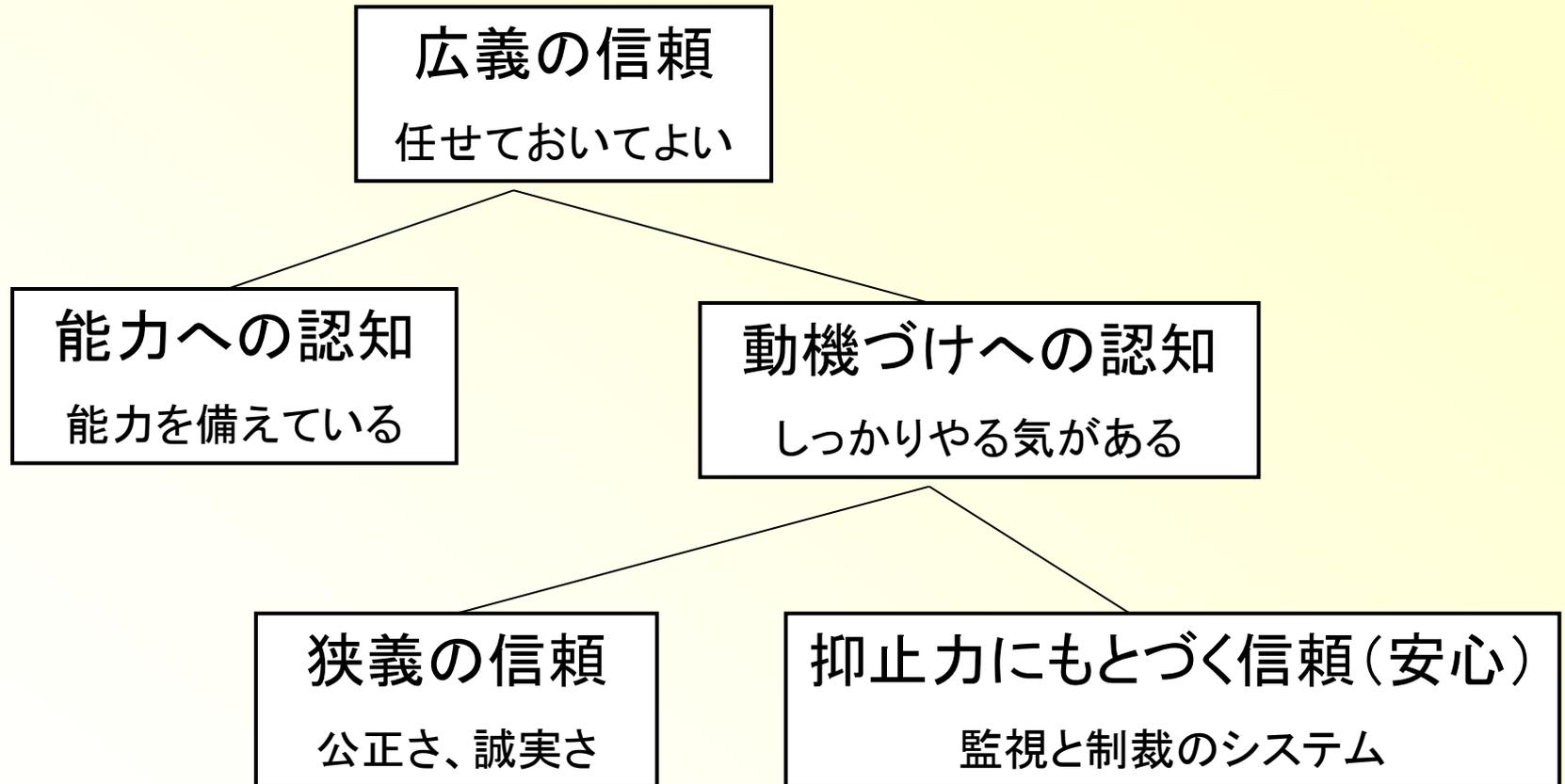


自分の判断を受け入れない人に対しては・・・

- ✓ かれらは十分な科学的知識をもっていない
- ✓ 産業界の息がかかっている
- ✓ 権力に取り込まれている
- ✓ 科学ではなくイデオロギー
- ✓ 何にでも反対を唱える人

(中谷内一也『リスクのモノサシ』)

# 信頼の構図



中谷内一也『リスクのモノサシ』より